

日本経済新聞

1月18日

水曜日

31 長野経済

【第三種郵便物認可】

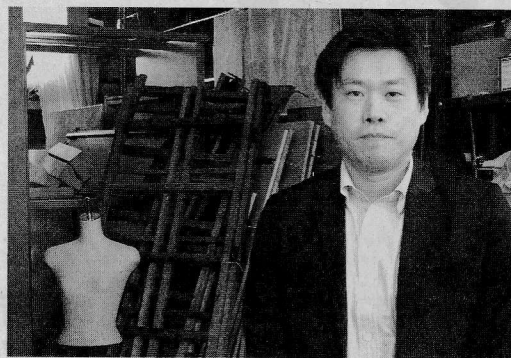
起業 @信州

テナントリユース(松本市)は撤退するアパレル店舗から商品の展示に使用した棚や机、ハンガーなどの什器(じゅうき)を買い取り、別の空き店舗に新規出店予定の希望者にインターネットで安く販売する異色のベンチャー企業だ。羽山輝彦社長は美家のアパレル販売業で働きながらも小売りの難しさに直面し、新たなビジネスモデルを確立しようと独立開業した。

松本市を中心に婦人服の

アパレル什器、買い取り販売

テナントリユース社長 羽山 輝彦氏



▽所在地 松本市中央3の11の21 (☎0263・33・2876)
 ▽代表者略歴 はやま・てるひこ 1998年流通経済大学卒。2002年ハヤマ入社。2015年テナントリユース設立。松本市出身。42歳
 ▽事業所概要 アパレル什器(じゅうき)の買い取り、販売

ネットで完結、安く提供

販売を手掛けるハヤマ(同市)を経営する両親の元に生まれた。家業を継ぐと2002年に同社に入社。1990年代には「ブティックハヤマ」を県内に8店

は逆らえない。「小売業は難しいが、アパレルの経験を生かして新しいビジネスはできないか」と考えた。アパレル業界で働く中で注目していたのが、撤退する店舗が衣料品の展示に使っていた什器の廃棄に20万円ほどの費用がかかる点。一方で新規出店者も什器を購入しなければならぬ。「捨てる什器を買い取り、新規出店者に安く売れば可能性はあるのではないか」。

1990年代には「ブティックハヤマ」を県内に8店年ほど奮闘したが、時流に

撤退する店舗には手間がかかるからという、メールで写真と品数を送信してもらい、買い取り価格を算出する。その後、自トラックで駆けつけ什器を回収。倉庫に保管し、自社サイトやネットオークションで販売する。店舗は持たずネットで完結するビジネスだ。

撤退する店舗には手間がかかるからという、メールで写真と品数を送信してもらい、買い取り価格を算出する。その後、自トラックで駆けつけ什器を回収。倉庫に保管し、自社サイトやネットオークションで販売する。店舗は持たずネットで完結するビジネスだ。

14年に松本商工会議所の起業説明会で事業計画の作成法などを学び、松本信用金庫からは国の創業補助金を獲得するための手続きを教わった。ハヤマ時代に始めた自己資金400万円と創業補助金200万円、県信用保証協会の創業融資資金400万円を合わせて1000万円を松本市内に事務所と物流拠点を構え、15年7月に独立開業した。

当初は買い取り先の開拓に苦労した。開業した月に什器の仕入れができた店舗は3件。売り上げは月30万円ほどだった。調達先開拓に向け、付き合いのあったアパレル業者にメールや電

長野



長野支局 0266-2332-2111
松本支局 0263-336-3007

(結城立浩)